

I 研究主題

1 研究主題

認め合い、高め合い、学び合う児童の育成 ～算数科の問題解決型授業を通して～

2 主題設定の理由

(1) 埼玉県及びふじみ野市の方針から

埼玉県の基本理念として『生きる力を育て 絆を深める埼玉教育』が掲げられている。「生きる力」とは、知・徳・体の調和を図りつつ、豊かな創造力を発揮することである。また、「絆」とは、教師と児童など人間同士のつながりや、学校・家庭・地域の結びつきを意味している。

この基本理念をより実効性のあるものにするために5つの基本目標を掲げている。その1つに、「確かな学力と自立する力の育成」がある。これは、児童の学習意欲を向上させ、学習習慣の定着から基礎基本の確実なる定着を図り、世界をめざすグローバル人材の育成に努めることである。また、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進するとともに、発達障害など特別な支援を要する児童の教育も充実させなければならない。

2つ目に、「豊かな心と健やかな体の育成」である。これは、子どもたちの規範意識を高めるとともに、夢や希望に向かってたくましく生きることができるよう豊かな心を育成することが重要である。

ふじみ野市の教育行政重点施策で、1番最初にあげられているのが「人権の尊重」である。全ての教育活動を通じて、差別や偏見のない地域社会を目指した人権教育の推進を図ることが重要であるということが読み取れる。

(2) 教師・保護者の願いから

本校では、保護者会で人権について各学年テーマを決めて話し合ったり、保護者向けにアンケートを実施した。その結果、学校と家庭の連携が図れただけでなく、「いじめは絶対にいけないという意識が向上した。」「思いやる気持ちが養われた。」などのご意見をいただいた。しかし、「挨拶をもっとしっかりしてほしい。」「自分のことだけでなく、困った人の役に立ってほしい。」「人の役に立つ人間になってほしい。」という願いも頂戴した。また、人権だけでなく、「基礎学力を伸ばしてほしい。」という意見も多かった。

昨年度人権を研究してきた教師からは、「道徳の授業実践を通して子どもたちは友達の意見をしっかり聞く態度が養われた。」「人権作文、人権標語、挨拶の道、計画委員会の挨拶キャンペーンなどの取り組みから、児童の温かい言葉がとても増えた気がした。」などの意見が出た。しかし、「保護者・地域に、人権意識を高めてもらうための発信をもっと増やすべきである。」「児童の挨拶が自然と出るようにしたい」「もっと友達と認め合える児童を育てる必要がある」「人権教育を道徳の授業だけでなく、児童の算数の基礎学力向上を向上させながら人権感覚を養う必要がある。」などの課題も出された。

保護者側も、教師側も、児童の人権感覚のさらなる向上と算数の基礎学力向上に対する願いは共通していた。

(3) 児童の実態から

①アンケート * 5月に実施した結果から

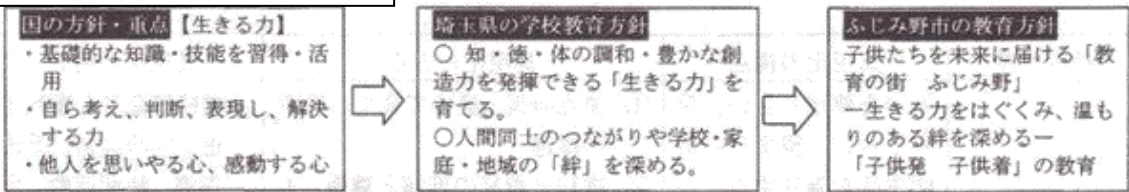
- ・人権
- ・算数

②入間地区算数数学学力調査 * 4月の結果から分析

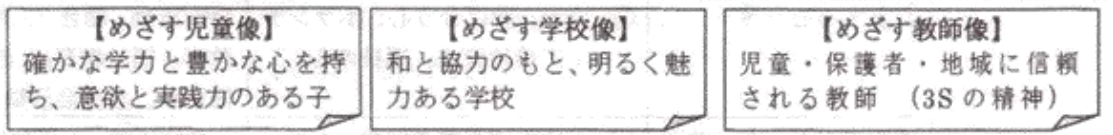
③3つの達成目標（昨年度のもの）

(4) 学校教育目標の具現化の視点から

大井小学校 学校経営全体構想図



【教育目標】 仲良くする子 考える子 たくまい子



PLAN

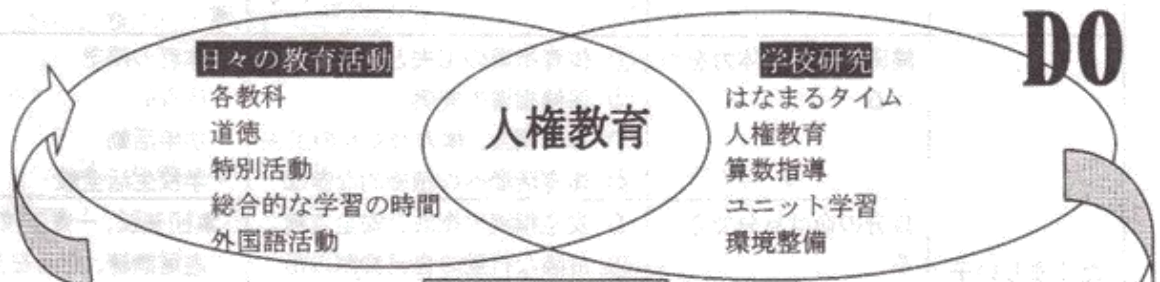
経営方針

◇美点凝視・褒めて育てる教育の推進◇

(1)人を大切にし、人を育てる学校づくりをめざす
 (2)教職員自ら学び合い、子どもたちとともに成長していく学校づくりをめざす
 (3)美しい学校、美しい心の子どもたちを育てる教育をめざす
 (4)地域・保護者との連携を密にする教育をめざす

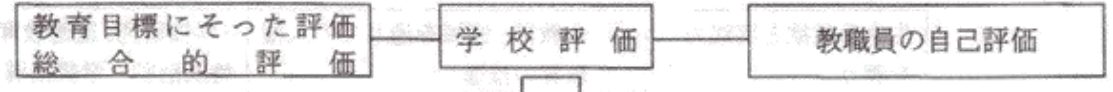
学校経営の重点 (一事徹底)

- ◆ 創意・活力に満ちた学年・学級経営⇒心のふれあいと信頼、目標の具現化と実践、カンセリング*マインド
- ◆ 児童を生かした学習活動⇒一人一人を生かす学習活動、基礎基本の指導、定着化
- ◆ 児童を育てる生徒指導⇒生活習慣の基礎基本、人、ものを大切にする心、挨拶・礼儀の定着化
- ◆ 美しく、落ち着いた環境⇒清潔、整理整頓の励行、安全指導・安全点検の重視
- ◆ 互いに学び合い、高め合う学校⇒学年相互の連携、授業実践、人権教育推進
- ◆ 地域との連携を深め、開かれた学校づくり⇒たよりの発行充実、PTA 協力、情報収集



経営を支える柱

- 資質の向上を図る教職員研修の充実
- 信頼を高める開かれた学校づくり
- 地域との連携・交流



SEE 児童の変容 CHECK

(5) 研究主題のとらえ方

認め合い、高め合い、学び合う児童の育成 ～算数科の問題解決型授業を通して～

①研究主題の「学び合う」の位置づけ

授業における「学び合い」の多くは、話し合い活動であろう。学習のならいにに応じて、ペア学習、グループ学習、一斉学習などの学習形態は様々であっても、授業においては子ども同士の豊かな関わり合いの場が望ましい。そのためには、子ども1人1人が聞く力・話す力を備えておかななくてはならないし、教室内の話し合いのルールが明確化されていなくてはならないだろう。そうすることで、クラス全員は参加しての豊かな関わり合いのある学習活動が可能になる。そこで、話し合いの具体像を設定し、さらに学習スキルとしての「聞く・話す・書く」姿を設定していきたい。これらの学習スキルを全員が駆使しながら話し合い活動を充実させることによって、子どもたちの「学び合う」姿を引き出すことができると考える。

②「算数科の問題解決型授業」と研究主題

教師の一方的な教え込みでは、児童同士が認め合い、高め合い、学び合うことはできないであろう。児童が主体的に取り組むような問題解決型の授業が不可欠である。算数科では、学習内容の意味や原理、法則などを既習事項を活用し、未知の課題に対して見通しを持ちながら自力解決をすることで新たな知識や技能を習得していく。しかし、誰もが自力解決できたら何の苦労もない。児童には個性があり、学習の習得にも差がある。また、学校現場では、その個性を大切にしながら児童同士が思いやる気持ちを育むことが重要である。分からない問題には児童同士で助言し合い、また友達の考え方を参考にしながら徐々に自力解決能力を向上させることが重要である。問題解決型の授業を効果的に進めていくことで、子どもたちが認め合い、高め合い、学び合う心を育むと同時に、個々の基礎学力も向上すると考え、本研究主題を設定した。

③研究でめざす具体の児童像

研究主題の達成を目指し、各学年の発達段階から、育成する児童像を明確にしながら研究を進めた。

○低学年

友達の考えをよく聞き、自分の考えを深めることができる子
自分の考えを伝えることができる子

○中学年

既習事項を生かして、自分なりの考えを持つ子
考えたことをわかりやすく伝えることができる子
教え合うことで、互いを高め合うことができる子

○高学年

論理的に思考し表現する子
友達の考えとの相違点を見つけられる子
互いに敬意を表しいろいろな考え方からよりよい考え方に高めることができる子

○杉の子

話を聞き自分の考えを深めようとする子
自分の考えを伝えようとする子

以上、5つの視点を総括した結果、今年度本校は、人権教育をふまえながら算数科に着目した『認め合い、高め合い、学び合う児童の育成～算数科の問題解決型授業を通して～』を研究主題と設定した。

3 研究の仮説と手立て

(1) 研究の仮説

研究主題の達成を目指して以下のような仮説を設定して研究を推進した。

仮説

- ① 児童一人一人の学習状況を知り、児童の実態に応じた手立てを明確にすれば、基礎学力（自力解決する力や伝える力）が向上するであろう。

- ② 児童自身が考えたい、伝えたいと思えるような環境や授業構成、教師の問いかけを工夫すれば、表現したいという意欲が喚起されるであろう。

- ③ 算数的活動を通して、児童の知的好奇心をくすぐるような考える場を多く設定したり、問題解決型の授業の手立てが明確であれば、自力解決の充実感や達成感を味わい、学び合う良さを実感するであろう。

認め合い、高め合い、学び合うために、まず自力解決するために必要な技能を身に付けさせる。次に、その技能を表現したいという心情を沸き立たせる。最後に、自力解決や練り上げの場面で、自ら考え伝え合う楽しさやうれしさを味わわせる。

この3つの段階を踏まえ、スパイラルに繰り返すことで研究主題の達成につながると考えた。

(2) 仮説にもとづく手立て

仮説①の手立て

- ・ 人間算数数学学力調査問題結果の分析をし、児童1人1人の学習の実態を把握する。
- ・ 算数アンケート及び人権アンケートを通して、児童の実態や傾向を客観的に把握する。
- ・ はなまるタイム(朝学習)の月曜日には、基礎計算力の向上を図る問題を用意する。
- ・ 2月 人間算数数学学力調査問題（過去問）実施
- ・ 表現方法の手立て（具体物、抽象化した絵、図や表、立式、簡単な論理語など）。

仮説②の手立て

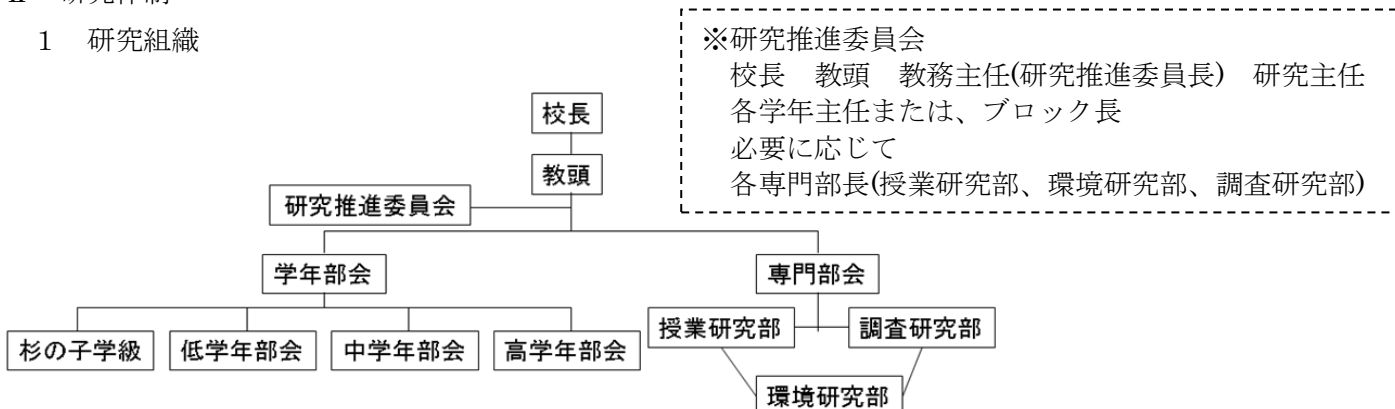
- ・ 隣同士、4人、フリー相談タイムなどのユニット学習を取り入れる。
- ・ はなまるタイム(朝学習)の木曜日には、思考力の向上を図る問題を用意する。
- ・ 教室掲示、階段掲示、算数コーナーなどの環境整備
- ・ 児童のつぶやきを大切にする授業を心がける。

仮説③の手立て

- ・ 練り上げの場の工夫をする。
- ・ 問題設定の工夫をする。

II 研究体制

1 研究組織



○授業研究部のねらい

指導方法や指導形態の工夫改善についての計画・立案を行い、全職員で共通理解を図りながら実践に結び付ける。

○環境研究部のねらい

はなまるタイム(朝学習)の問題作成、学習に生かせる掲示環境の充実に努めるとともに、けやき教室(算数少数人数指導教室)の運営など、児童の主体的な学習に対する環境整備に努める。

○調査研究部のねらい

人間地区算数数学研究会学力調査問題の分析やアンケート(人権、算数双方)等で児童の実態(認知面・情意面)や変容を客観的に把握し、分析を加えながら研究推進に生かす。

* 3つの部が常に連携を取りながら、授業に必要なものを用意したり、児童の実態に応じたもの、教師のニーズに答えるものを提供し合った。

	授業研究部	環境研究部	調査研究部
1年	伊藤	笹岡	田牧
2年	鈴木	飯田	吉里
3年	松嶋	(中村・佐藤み)	福田
4年	田中	堀谷	(永倉)
5年	山下	神戸	松尾
6年	高島	佐藤	加藤
杉の子	松葉 斉藤	西澤 中野	大塚
フリー	小野	佐藤美・中村	永倉

2 研究の全体構想

研究構想図

III 研究の経過

4月18日(月) 全体会 テーマ・サブテーマ・研究組織等決定

5月16日(月) 全体会 授業研実施日の決定・指導案形式決定

研究部会

授業研究部・小野・PC室	環境研究部・佐藤・保健室	調査研究部・松尾・職員室
<ul style="list-style-type: none"> メンバー確認・研究部長の決定 にじの時間の年間計画原案作成 ユニット学習プラン 学年ごとの指導計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> メンバー確認・研究部長の決定 はなまるタイム年間計画原案作成 教室・廊下等掲示計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> メンバー確認・研究部長の決定 算数アンケート、人権アンケート原案作成 M-22-人権 人間学力調査結果分析

5月23日(月)

6月13日(月)

6月20日(月)

6月27日(月)

夏休み

9月5日(月)

9月12日(月)

10月24日(月)

12月5日(月)

冬休み

1月16日(月)

1月23日(月)

2月6日(月)

2月20日(月)

3月5日(月)

3月12日(月)

IV 研究内容

1 学年部会

①低学年部会

②中学年部会(中村・佐藤)

③高学年部会(高島)

2 専門部会

(1) 授業研究部

・授業実践

・にじの時間実施計画など

・ユニット学習のプラン作成

(①学年ごとの指導計画の作成(グループ学習) ②発表力の育成③帰りの会での発表、討論活動の充実)

(2) 環境教育部

・人権標語、人権作文、人権の花、人権の道拡大

・教室、階段、廊下掲示

・体験コーナー

・はなまるタイム問題作成 など

(3) 調査研究部

・4月 人間算数数学学力調査問題結果の分析

・5月 算数アンケート、人権アンケート調査及び分析

・3つの達成目標分析

・道徳年間計画の見直し

・人権感覚育成プログラム

・11月 算数アンケート、人権アンケート調査及び5月からの変容分析

・2月 人間算数数学学力調査問題(過去問)実施、結果の分析(4月からの変容)

V 研究の成果と課題

・先行を含め、一人1授業行う。